
性欲というものについて

りの。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

性欲というものについて

【Nコード】

N6311Z

【作者名】

りの。

【あらすじ】

彼は一日中そのベンチに座っていました。彼は本を読んだり、時には水平線の向こうを見つめたり、近寄ってくるハトに親しげな視線を送ったりもしました。

小説を書くということは疲れる。

だって打ってるから。

時間もかかる。

面倒くさいと思う日じゃない日は決まってなにか別のなにかで小説を書いてる日なんだ。

ある若い女が働く海がすぐ近くにある飲み屋がある。名前は「スコッチ・アンド・ソーダ」

そこで売ってる酒の名前は「秘密の金魚」

無知。

殻。

メタ。

世界。

認識。

他者承認。

性欲。

そつだ。性欲だ。

自分がどれだけ性欲から切り離せない人間かという事を目をつぶるように書くことと思う。

そつだね。どこから始めようか。

まずは幼稚園、正確に言えば保育所の年長かすこし前くらいからかな。

そのころから好きな人はいたし、保育園の先生の服の上からの胸がとてつもない衝動だった。

できることならものすごく淫らな行為をその先生と二人きりでしたかった。

生々しさを越えた、もっと、淫らな行為。秘密を含んだ、狂気性のあるもの。

確か小学一年のころからフェラという言葉と意味を知らないけれど当然、そのころから学年で一番にかわいくてえろい女の子にフェラをしてもらいながら階段を降りる夢を見た事があるし、とにかくものすごく凶暴的に性欲が溢れ出て滲み出ていた。ただそれをじんわりとじとつと隠し続けてきたんだけれど。女の子に手を出す勇氣もなかったしね。

ただこのへんまで僕の性欲について語ったところで、そのような人間は世界を、日本をでさえみても統計的な割合で存在するだろうし、僕はたまたまか遺伝かはさっぱりもって分からないけれど、その割合の中におっぽりこまれちゃったってだけの話なんだ。というか、程度の問題ではあるけれど、ある程度の人間ならそうだろうかもしれないとも思う。その産業の規模からみてね。

けれど僕がここで言いたいのは、それで、その欲求を抱えたまま、誰にも何も言わず、ただ毎日誰にも嫌われないようにして、というのはいいわけでもあって、女の子に対してg友達という一線を越えるのがこわくて、毎日を実実とは別の、適当な焦点を合わせ続けてきただけだったってことだ。

そして僕がなにが言いたいのかというと、僕はこの摩擦にもういい加減、いい加減、もう一度言うけれど、いい加減、耐えられそうにないってことだ。

僕は恥ずかしさというものが欠如した子供のまま大人になりなんのメタ世界も知らないまま知ったつもりでしんでゆく人間らしい。

つまりね、これだけ長々と書いてきたんだけど、とどの問題、どうして僕は風俗に行つて好きな人ではない女の子と一発はめちゃいけないのか、っていう話しなんだ。この話は、意味がわからない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6311z/>

性欲というものについて

2011年12月21日01時50分発行